

新刊紹介

“光川ひさし”氏著 宇宙旅行 東京新光社 科學文庫

いとけなき小児たちのために天文學を平易に書いたもので、著者は東京天文臺の一メンバ(但し、匿名)である。可なり面白く讀ませる。しかし、小児が鵜呑みに覺えて了る書物としては、嚴密に言ふと、案外、誤りや、不注意な點が多い。下に、すぐ氣の付いた點を掲げる：

- 第19頁 山本一清博士の讀み方は、“かずきよ”でなくて“いっせい”。
- 35 天文單位149504200軒は精し過ぎる。一萬軒内外は不定である。
- 36 地球の軌道楕圓は餘りに楕圓過ぎて、讀者を過まる。
- 39 寒暑の理の説明は再考を要する。
- 37 自轉しないとすれば?!
- 53 “惑星”は不可。“冥王星”は宜しい。
- 55 離心率などといふ高尚な觀念を説明する必要はない。
- 75以下 火星運河の説明は不穩當。“スキヤバレリ”は“スキヤバレリ”
- 79 火星の熱帯が日本の冬に似てゐるとは不當。
- 95 “セレス”は可。“ホンザッハ”は“フォン・ツァハ”
- 97 “ピアッツィ”は“ピヤッジ”
- 100 γ を春分點の符號とするのは不可。勿論，“ガムマ”で無い。
- 128 圖中の土星輪の影は誤解を起す。
- 215 “ベータ”、“ジータ”、“イータ”、“ユブシロン”等の讀みは不統一。
- 209 “カस्ता1”は“カストア”とすること。
- 216 “アルコル”は“アルコア”とすること。
- 228 アルゴル星や琴座ベ星の變光曲線は高尚過ぎる。
- 230 “カシオペア”は“カシオペヤ”とすること。
- 232 “五味といふ人”“岡林といふ人”は餘り水臭い。日本人として、こういふ人を子供たちに尊敬させなければならない。
- 233 新星の原因として衝突説は古い。
- 239 “ブレアデス”は“ブレヤデス”とすること。
- 317 “シュトルーヴェ”は英獨混合式の發音。

注意：すべて、小児のための書物は、“小児のため”といふことで徹底しなければならない。小児にまでも“離心率”や“變光曲線”を強いることは、教育眼の無い人で、又、誰でもかまはず“學者”にしなければ承知できない人、之れは日本學者の惡趣味である。

學術語や外國人名地名の書き方に無關心、不注意なこと。之れも日本の學者の缺點である。著者自身は外國語を主として讀んでゐるので、日本語を、單に“假り”のもの、“借りもの”と、軽く見てゐる。しかし、讀む小児たちは片カナ名だけしか知らないのだから、一旦“ブレアデス”と覺えたら、一生涯それで貫くことになる。又、一般に、片カナ名も立派な日本語であるべきで、決して之れは單なる發音符號でないことを深く認識すべきである。(a 生)